

パネルディスカッション 登壇者プロフィールシート ※50音順

No.	地域で活動をはじめた、始めようと思ったきっかけ等
1	
氏名(ふりがな)	
あんどう よしひろ	
安藤 芳宏	
職業	
会社員	
年齢	
50代	
主な活動(生活)エリア	
中野島周辺	

11年前、相模原から多摩区へ引っ越してきた。2年前までは、南生田で子供がサッカーをやっていた関係で、地域とのつながりがあったが、それが終了してからはつながりが無くなってしまった。
勤務先が中野島のため、仕事で地域との関係はあるが、異動すればそれも無くなってしまふ。定年後、孤立してしまうのでは、という不安があり、何かしなければ、という思いはあるが、どのように地域とつながればよいのかわからない。今回のパネルディスカッションをきっかけとして、地域とのつながりづくりができれば、と考えている。

No.	地域で活動をはじめた、始めようと思ったきっかけ等
2	
氏名(ふりがな)	
かどや きょういち	
角谷 恭一	
職業	
会社員	
年齢	
60代	
主な活動(生活)エリア	
登戸、向ヶ丘遊園周辺	

30年ほど、登戸・中野島に在住。今年60歳となり、3月末で退職予定。
会社では、50歳頃から、定年退職後を見据えた研修等があったが、地域とのつながりづくり、という論点のものではなかった。
5年ほど前から、退職後の「第3の居場所」として地域活動をしたいと考えはじめ、インターネットで多摩区ソーシャルデザインセンターの存在を知り、2年前から参画した。

No.	地域で活動をはじめた、始めようと思ったきっかけ等
3	
氏名(ふりがな)	
ことう めぐみ	
古藤 仁	
職業	
会社員	
年齢	
40代	
主な活動(生活)エリア	
登戸周辺	

普段は、都内で勤務。子どもが大きくなり、ママ友との関係が薄れたことで、子育て中の地域とのつながりが途切れてしまった。川崎が地元ではないので、ママ友以外の知り合いがいなかったため、孤立感を感じていた。また、親の介護が落ち着いたことで、時間に余裕ができた。
そんな折、2年ほど前に、和教授の「地域でのつながりの重要性」についての講演を聞いたことがきっかけで、地域活動への参画を開始。現在では、多摩ふれあいまつりの実行委員（障害啓発のイベント。毎年6月に市民館で開催）、車いすの外出支援、市民記者（川崎市内の市民活動を紹介する活動）等、様々な活動を行っている。

No.	地域で活動をはじめた、始めようと思ったきっかけ等
4	
氏名(ふりがな)	
はしもと よしあき	
橋本 宜明	
職業	
会社員	
年齢	
50代	
主な活動(生活)エリア	
中野島周辺	

熊本出身。2019年に中原区から多摩区に引っ越してきたため、地の利が無く、地域コミュニティへの入りづらさを感じていた。
多摩区ソーシャルデザインセンターには立上げの検討会から参加し、現在は副代表を務める。
勤務する会社が実施するセカンドキャリアに向けた研修の中で、ソフトランディングの重要性を強く認識。定年退職された会社の大先輩が、寂しそうに多摩川河川敷で佇んでいる様子を偶然目にしたことで、更にその思いを強くした。
そうしたこともあり、誰でも参加出来る、地域でゆるいつながりを作ることをコンセプトにした「カラフルカフェ」を企画・実施している。